

企画展示のご紹介

ヒョウモンモドキ成虫展示

- 期 間：6月4日（土）～6月19日（日）
- 内 容：広島県にのみ生き残った絶滅危惧種「ヒョウモンモドキ」。その成虫の吸蜜・産卵の様子をご覧ください。



ゴキブリワールド

- 期 間：6月18日（土）～7月3日（日）
- 内 容：世界の様々なゴキブリの生体を展示し、その特徴や暮らしを紹介します。



世界のカブト・クワガタ 2022

- 期 間：7月16日（土）～8月28日（日）
- 内 容：ヘラクレスオオカブトムシ、ギラファノコギリクワガタ、マルスゾウカブトムシをはじめとする世界の様々な種類のカブトムシやクワガタムシたちを間近でご覧いただけます。



イベント案内

- ★ 6月 ① むしの日～昆虫博士になれるかな？：4日（土）10:00～11:30、13:00～14:30
- ② 大人のための昆虫講座「ヒョウモンモドキ」：12日（日） 13:30～14:30
- ③ 虫講座「ゴキブリのはなし」：19日（日） 13:30～14:30
- ④ バックヤードガイド「飼育室ツアー」：25日（土） 13:30～14:30
- ★ 7月 ⑤ バックヤードガイド「樹木園ツアー」：9日（土） 13:30～14:30
- ⑥ 虫講座「カブクワの採り方」：17日（日） 13:30～14:30
- ★ 8月 ⑦ むしむしサマースクール：6日（土）、20日（土） 10:00～12:15

- ※ 新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、中止・変更などの可能性があります。
- ※ ①以外は、すべて「事前申し込み制」です。
- ※ 募集定員数は、②～⑥は25名程度。⑦は3名程度。応募多数の場合は抽選となります。
- ※ 申し込み締切日等の詳細につきましては、[こんちゅう館](http://www.hiro-kon.jp/)のホームページをご覧ください。

こんちゅう館 News 新シリーズ Vol.9 夏号 2022 年 6 月 1 日

編集/発行 [ひろの未来の森](http://www.hiro-kon.jp/) 広島市森林公園こんちゅう館

〒732-0036 広島市東区福田町字藤ケ丸 10173 番地
TEL (082)899-8964 FAX (082)899-8233 HP <http://www.hiro-kon.jp/>

こんちゅう館 News

み～んな主役！！ 虫の館のスターたち ⑨

ヘラクレスオオカブトムシ *Dynastes hercules*

コウチュウ目 コガネムシ科



成虫 雄（前翅が黒色）



成虫 雄（前翅が黄褐色）

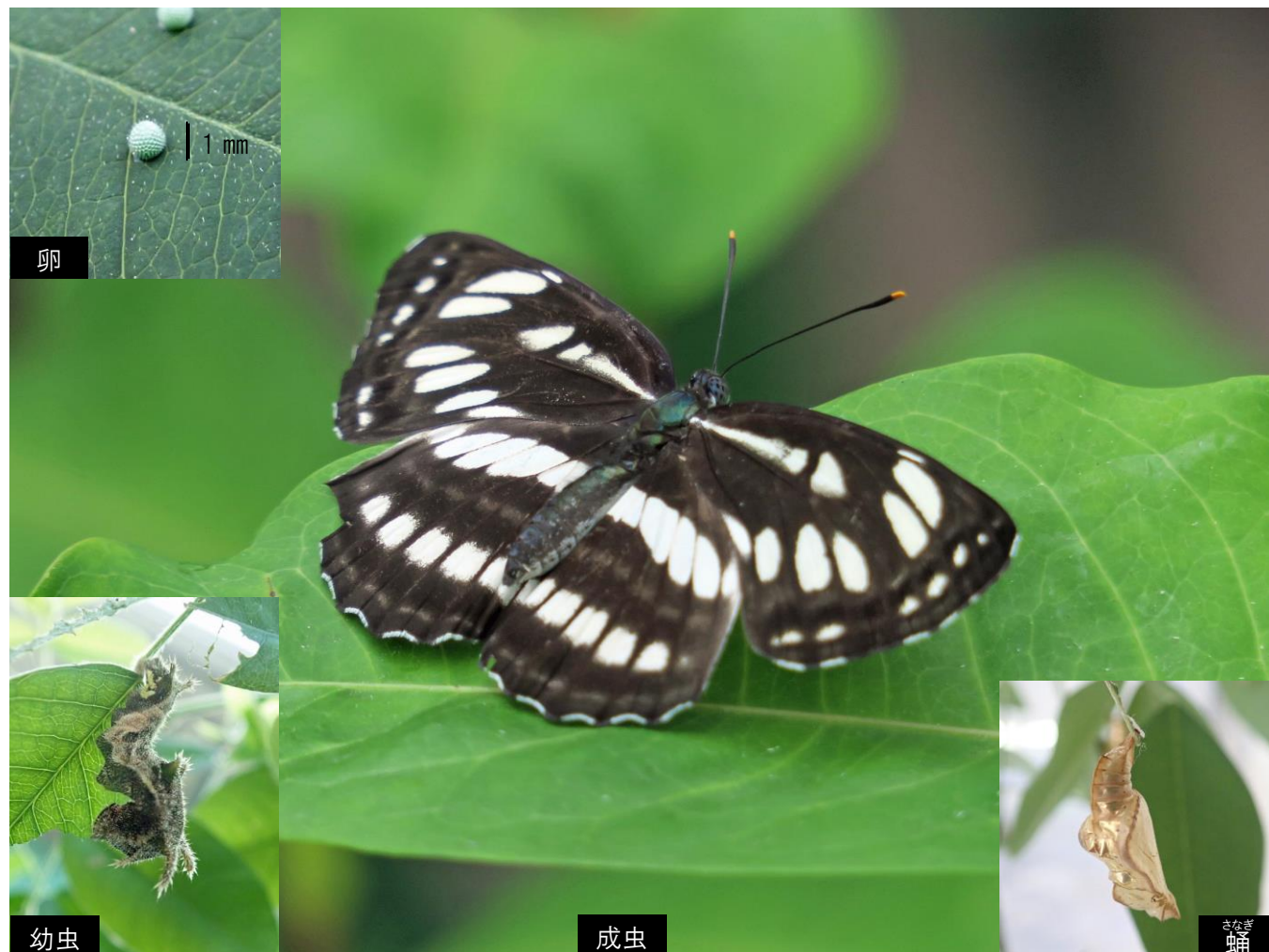
ヘラクレスオオカブトムシは、体長が最大で180mmを超える、世界最大のカブトムシです。最近ではペットショップでもよく見かけ、日本人にとってはなじみ深い存在となっていますが、南アメリカの熱帯雨林に生息するカブトムシです。幼虫は市販のカブトムシ用マットに加え、クヌギマットや菌系カスも食べます。そのため、こんちゅう館では他のカブトムシ・クワガタムシの飼育で生じた残りのマットを処理してもらっています。カッコ良くて育てやすい、こんちゅう館の“スター”です。

ヘラクレスオオカブトムシといえば、黄色い前翅をイメージする方が多いと思います。しかし、翅の色は湿度によって変化します。個体差はありますが、湿度が低い時にはお馴染みの黄褐色、湿度が高くなると黒色になります。写真撮影の時には事前にケースから取り出しておき、翅をよく乾かしてから撮影しています。翅を変色させる理由については、周囲の環境に紛れ込むため、あるいは体温調整のためだと考えられていますが、その役割はまだ解明されていないようです。（久我）

パピヨンドームの舞姫⑨

リュウキュウミスジ *Neptis hylas*

チョウ目 タテハチョウ科



リュウキュウミスジは国内では奄美大島以南の南西諸島に生息するチョウです。パピヨンドームのチョウの中では小型の種類で、翅を開いた時に見える三本の平行な白い線と、何度か羽ばたいた後に滑空する独特な飛び方が特徴です。

幼虫の食草はマメ科の植物で、こんちゅう館では主にハギを与えています。秋の七草としても知られ、荒地や土手などで見られるハギですが、野外では冬に葉が枯れてしまいます。

こんちゅう館ではビニールハウスで温度管理をしながら食草のハギを育てていますが、それでも冬場は生育が悪く、幼虫の餌を確保するのはなかなか大変です。その他に食草として報告されているデリス（ドクフジ）という植物も与えたことがありますが、こんちゅう館で飼育している個体はあまり食べてくれませんでした。

成虫はパピヨンドームの花からあまり吸蜜しないので花に止まる姿を見ることは難しいのですが、ひらひら飛んできては翅を開いて地面に止まることがよくあります。見つけた時には踏んでしまわないように気をつけながらそっと観察してみてください。（高野）

こんちゅう館の四季 2022 初夏～夏

好物樹木園の初夏は、最も昆虫を多く観察できる季節ではないでしょうか。好物樹木園には、昆虫が集まる植物が植栽されていますが、その中でも一番多いのがコナラやクヌギなどドングリのなる木です。これらの木は樹液が出やすく、その樹液を求めて多くの昆虫が訪れます。皆さんもご存じのカブトムシやクワガタムシは、樹液を訪れる昆虫の代表格です。彼らは基本的に夜行性なため、昼間に行う観察会では観察することは難しいです。運が良ければ、昼間の観察会でも樹液に群がるその姿を観察できるかも？

また、これらの木は、アカシジミなど樹上性のシジミチョウの仲間も利用します。春先にクヌギやコナラの新芽を幼虫が食べ、初夏に成虫が発生します。初夏の夕暮れ時に、好物樹木園の空を見上げると、樹上を活発に飛翔するアカシジミの可憐な姿を観察できます（佐藤）。

新緑の眩しい好物樹木園



こんちゅう館の季節の虫

シロスジカミキリ *Batocera lineolata*

コウチュウ目 カミキリムシ科

5月中旬頃から成虫が発生する国内最大級のカミキリムシです。夜間に活発に活動し、こんちゅう館の飼育室の灯りにたまに飛んできます。クリなどの果樹を食害するので、農家の方からは“害虫”扱いされています。しかし、脱出痕や産卵痕から樹液が染み出すので、好物樹木園では“益虫”です。（佐藤）

